

熊本学園大学  
水俣学研究センター

二〇一五年度

第十二期 公開講座

# 九州・熊本の産業遺産と水俣

本年七月五日ユネスコ世界遺産委員会は、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」を世界遺産として登録することを決定しました。

これらの産業遺産登録は、日本の近代化の歩みを人類の財産として大事にしていこうという世界的なメッセージですが、それは同時に自分たちの町の近代化の歴史を見直し、町を元気にしていこうという働きかけであります。

水俣にも一九〇八（明治四十一年）に操業を開始した旧日本窒素肥料株式会社水俣工場の建物が残っています。現在は（株）江川の水俣工場として活用されています。水俣でもあまり知られていませんが、これは水俣の近代化を進めた貴重な建物です。

そこで、私たちは、世界遺産登録を機に産業遺産とは何かに学び、熊本そして水俣の産業遺産を見直したいと考えました。

後援…九州産業考古学会／熊本産業遺産研究会／水俣市／水俣市教育委員会

お申し込みは

水俣学現地研究センター

水俣市浜町二一七一三

電話・FAX 〇九六六一六三一五〇三〇 e-mail m-genchi@kumagakui.ac.jp

開館時間 火～金 午前十時から午後四時 \*電話FAX・メールいずれでもかまいません

期間：2015年10月6日から  
毎週火曜日 午後6時30分～  
会場：水俣市公民館 ホール

- 10月6日 幸田亮一（熊本学園大学学長）  
「熊本・九州の産業遺産とその意味」
- 10月13日 藤木雄二（大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ副理事長）  
「産業遺産としての三池炭鉱の光と陰」
- 10月20日 市原猛志（九州大学百年史編集室 助教・北九州市門司麦酒煉瓦館館長）  
「北九州での産業遺産活用の取組み」
- 10月27日 磯田桂史（熊本大学五高記念館客員教授）  
「水俣の産業遺産 旧日本窒素肥料（株）工場建物の意義」
- 11月3日 旧工場現地見学会 案内：磯田桂史  
\*この回のみ 午後1時～（詳細裏面）

受講はすべて無料です  
全講義受講者には修了証を発行します

# 講師紹介

## 幸田亮一

熊本学園大学学長

10/6「熊本・九州の産業遺産とその意味」

1996年から熊本学園大学商学部教授、2014年8月に学長就任。専門は経営史。主な著書として『ドイツ工作機械工業の20世紀』『熊本の近代化遺産(上・下)』『肥薩線の近代化遺産』など。熊本県美里町出身



## 藤木雄二

大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ副理事長

10/13「産業遺産としての三池炭鉱の光と陰」

大牟田市役所を退職し、社会福祉協議会で農業・園芸の福祉・教育的展開を模索中。三池炭鉱の心象・風景を次世代につなぐ活動をとおして、故郷が深く見えてきた。水俣に学び「三池学」の立ち上げを仲間と画策中



## 市原猛志

九州大学百年史編集室 助教・北九州市門司麦酒煉瓦館館長

10/20「北九州での産業遺産活用の取組み」

九州大学大学文書館、九州産業大学景観研究センター勤務を経て、九州大学百年史編集室の助教と北九州市門司麦酒煉瓦館館長を務める。主な著書として『産業遺産を歩こう』『北九州の近代化遺産』など



## 磯田桂史

熊本大学五高記念館客員教授

10/27「水俣の産業遺産 旧日本窒素肥料(株)工場建物の意義」

崇城大学工学部准教授を経て、熊本大学五高記念館の客員教授、熊本産業遺産研究会の会長を務める。主な著作は『JR肥薩線における開業当初の駅舎の平面形について』『明治期熊本における近代工業建築の研究』など



## 11月3日の「旧工場現地見学会」について

水俣における産業遺産として、かつてのチッソ水俣カーバイド工場(現株式会社江川)である「旧工場」を訪れます。現地での案内は「水俣の産業遺産 旧日本窒素肥料(株)工場建物の意義」の講師、磯田桂史氏が担当します。

**集合場所：水俣市公民館前** \*現地までは10分程度徒歩で移動します。困難な方はご相談ください

**集合日時：11月3日 午後1時** \*他4回とは大きく異なり、日中の開催であることにご注意ください